

これらの語の用法を本当に 知っているか？

施光亨編著
漢語口語詞典



B6判 285頁
商務印書館
[1638円]

『漢語口語詞典(以下本書)』は、長年現代中国語の口語、対外漢語教育(外国人に対する中国語教育)を研究してきた著者が、中国語非母語話者に向けて、中国語の口語、つまり、話し言葉独特の言い回しについて、やさしく懇切に解説してくれた本である。

本書は、同裏表紙にあるように、中国語の教育に従事する者、そして、中等(新HSKならば三級、旧HSKならば六級)以上の中国語非母語話者の学習者をターゲットに書かれた。以下、本書の特徴や見出し語の選定などの問題を簡単にみていこう。

■ 本書の特徴

総二八五ページ。辞書ではなかなか取り扱うことのない、口語独特の言い回し一七九を見出し語として収録し、それぞ

れに対して、細かく意味を分け、その意味に基づいて、作例や現代文学作品からの用例が意図的に配置され、一つ一つの用例に対して、どのようなニュアンスか懇切な説明がなされている。

裏表紙には本書のセールスポイントとして、「説明は簡潔で分かりやすく、例文は豊富で実用的、生活にも密着(評者訳)」とある。確かに、見出し語のそれぞれの意味に対してあげる例文は豊富で、我々学習者に、より多くの例文から見出し語のニュアンスをつかんでもらいたいという気持ちが見わってくる。

また、見出し語には、*提示*、*附説*、*比較* という欄を設けて、見出し語使用の際の注意事項を付け加えている。

提示 は、単独での使用の可否、見出し語がなりうる文

成分、例文のより詳しいニュアンスの説明、その他の置き換え可能な同義の語彙、見出し語の反対の意味になる語、否定形式、見出し語が伴うことが可能な修飾成分などの文法的ルールを付記している(約一三〇か所)。

『附説』は、知っておいた方がいい、置き換え可能な類似表現についての補足的紹介である(約二〇か所)。

『比較』は、いくつかの類似表現に対して、似て非なるものであることを簡潔に述べている(一三組)。

そして、巻末付録の『副条索引』は、見出し語の類似表現としてとりあげたフレーズをアルファベット順に並べている。

■口語詞の選定について

ところで、本書でいう口語詞とは何を指すのだろうか。評者の思いどころでは、『現漢』の〈口〉(口語で用いられる単語についてのマーク)がある。

本書で挙げられている見出し語には、『問題』や『人家』等、単語レベルのものもあれば、『往心里去』や『等着瞧』のようなかなか固定したフレーズ、中には『说哪儿去了』や『什么呀』のような『現漢』の見出し語には到底拳がらない語気助詞までついたもの、さらに『这话是怎么说的』のような長い決まり文句的な文まである。

実際に、本書の見出し語と『現漢』と照らし合わせてみる

と、『現漢』の〈口〉がついたものを、本書が見出し語として採用しているわけではない。むしろ、『現漢』ではノーマークのものが多く収録されている。そもそも『現漢』の〈口〉の語彙は、第三版出版の際にその多くが一般語語彙に移行している(植田均二〇〇〇『普通話』に移行した口語)参照。

どうも、『現漢』のマークとは切り離して本書を見るほうが無難のようである。評者が考えるに、ここで著者の言う口語詞とは、既習の平易な語の組み合わせで作られた口語的表現と言えらるであろう。

著者は冒頭で、自身の体験から口語詞の難しさを三つのエピソードを通して教えてくれている。

一つ目は、著者が国外の大学四年生に教えた時のこと。学生たちに宿題を出すたびに、彼らは『好吧』と返してきた。しかし、『好吧』は、許可、承諾のニュアンスでの「わかりました」であり、ここでは適切ではない。『好吧』を使う場面を間違えているのである。そこで著者は、『好吧』のニュアンスの違いを細かく説明し、この場面では『好』で良いことを伝えた。

二つ目は『就这样』(このようにして／じゃあそうしよう)について。『就』も『这样』も一年生で習う語でありながら、文の中に、『就这样』がでてきたときに、前後の文に気を取

られて、教師はその機能を伝えきれない場合があると警鐘を鳴らす。

そして、三つ目のエピソードも興味深い。著者の学生(中国語非母語話者)で、後に中国語教師となった人が、一つ一つの語の意味はわかるのに「看你说的(本書一〇五頁参照)」全体の意味がわからず恥ずかしくて聞くに聞けなかったという。

外国人学習者は、このような口語的表現の意味を知らず、また、知っていたとしても、使い方、使う場所を誤る。著者は、外国人に教えた経験の中で、このような問題を強く感じ、本書を編むこととなったのである。

■ 本書の注釈から読み取るべき情報

以下では、具体的な例をあげながら、本書の魅力をいくつか紹介したい。

例えば、「有的是(二五二頁)」は「いくらでもある」ということだが、誰もが学習一年目で学ぶ三文字が、こう配列されることで、このような意味を持つことを知らない人は少なくない。本書はまた、類似表現として「多的是」をあげているが、「有的是」は多くある対象をこの前後どちらにも置けるが、「多的是」には制限があり、述語にしかなれず目的語は持てないという注意まで喚起する。

また、会話でよく使われる「不好意思(二四頁)」をみてみ

よう。「不好意思」は、「对不起」よりも気軽に使える「申し訳ない、きまり悪い」の表現として、最近のテキストのスク립トにもでてくる。本書が通常の辞書と異なるのは、「不好意思」が単独で言えることだけでなく、また文の中の述語、状況語、補語にもなれること、動詞性目的語を伴うことが可能なこと、肯定の形「好意思」は反語表現で多く用いられること、副詞の修飾ができることが例文とともに解説がなされていることである。

「打招呼(五〇頁)」では、辞書よりも詳しく、「言葉、あるいはうなずきや手招き等の動作であいさつを表す」と具体的な動作も示している。その他、他人にある事項を伝えたり、注意を伝えるという派生用法を持つことにも触れている。文法的な説明としては、動詞「打」の後に置くことができる成分(アスペクト助詞「了」「过」、量詞「个」「声」や補語「好」、対象を引き出すための使用可能な前置詞(ここでは「跟」「和」「给」「对」が可能)が記されている。

また、興味深いのは「吃饭了吗?」「(ご)飯食べましたか?」を見出し語として挙げ、それについて、四二頁―四四頁と三ページにわたって、詳細に説明していることである。「吃饭了吗?」があいさつになるという話は、中国語をある程度学ぶと授業

の中やどこからともなく知る。ただ、どう使うかは、実のところ難しい。

結局のところ、『吃饭了吗?』は我々が思うほど自由に使えないのである。以前の社会では、活動範囲も狭く、日常会うのは近所の人や親類ばかり、そんな中ではこの言葉も使えた。しかし、現代社会の中では、本書で言う『即景问候(相手の状況を察して発話するあいさつ表現)』は、いつも会う、互いをよく知る間柄の中でのみ用いることが可能で、正式な社交の場ではやはり『你好』である。また、この質問に対する答えは、簡単な肯定、否定の返答でよく、まじめに答えたらかつまり、授業で週一回会うような間柄では、この表現は使えない。これがあいさつになるといいう話を「中国文化を知る小

話」で使ったりすると学習者を誤らせることになる。

また、『研究研究(二六六頁)』は、重ねの形で見出し語としてあげ、通常の辞書にもある「考える、議論する、相談する」の用法に加えて、答えをはっきり言えない、やんわり断るときの口語表現を紹介している。さらに、この用法は公の場での常套文句として多く用い、個人的な場合には使わず、『想一想』でよいと注記する。

以上のように、本書からは、通常の辞書にはなかなか載らない文法的なルールから、使われる場所や使う相手等の注意や言外の意味までを知ることができるのである。

全体的には、かゆいところに手が届く興味深くわかりやすい解説がなされている。ただ、一つ注文するならば、置き換え可能な表現の解説については、少々物足りない。置き換え可

□新刊□

毛詩注疏訳注 小雅(一)

田中和夫 訳注 唐代初期、勅命による
經典解釈の統一化が図られ、孔穎達らに
よって集大成された。本書はその『詩経』
についての注疏『毛詩注疏』小雅篇、卷
九の三・四部分の訳注。 ■63000円

『毛詩注疏訳注 小雅(一)』小雅篇、卷九の
一・二部分の訳注。 ■63000円

初期中国語訳聖書の 系譜に関する研究

塩山正純 著 カトリックの聖書抄訳からモ
リソン訳『神天聖書』、マーシユマン訳『聖
経』に至る初期の中国語訳聖書を対象に、
翻訳文の文体と語彙、異文化翻訳について
考察し、宣教師の学んだ中国語の特徴を明
らかにする。 ■62400円

現代中国語における 「領属」の諸相

勝川裕子 著 従来個別的に取り上げら
れてきた各種統語形式を領属範疇の観点
から捉え直し、現代中国語における領属
表現の諸相について、譲渡可能性(transfer
ability)の観点から考察する。 ■68000円

白帝社

※価格は税込

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-65-1
TEL 03-3986-3271 FAX 03-3986-3272
http://www.hakuteisha.co.jp

能と言われても、言葉が違う以上、細かなニュアンスの違いがあるはずである。的確なニュアンスを知るためにはそこまでの解説がほしい。

■学習的視点から

我々非母語話者にとって、中国語学習は、どれだけ時間をかけても、なかなか乗り越えられない壁が幾重にもあらわれる。この壁を乗り越えるには、一つ一つ覚えながら、復習を繰り返し、経験を積んで、語感を養っていくことで、解決していくしかない。

本書に採用されている見出し語は、一見簡単そうなものだが、今一度見直してもらいたいものばかりで、まさに学習の盲点である。中等レベル以上の学習者が得るところが大きいのはもちろん、それ以上のレベルの学習者であっても、はつとさせられることが必ずあり、自身がどこまで使えているか、本書を通して、確認していただきたい。また、我々中国語教育に従事する者も、本書に書かれた情報をさらにかみ砕いて、簡単なところから学習者に紹介すれば、より適切な発話のニュアンスを広められ、著者の案ずるところも少しずつ解決していけるだろう。

(なかにし・ちか 愛知県立大学)

中国出土資料学会平成24年度大会(第3回例会)

▼日時・3月16日(土) 受付開始12時30分 研究報告13時〜17時 会員総会17時〜18時▼場所・慶應義塾大学西校舎515教室(東京都港区三田2-15-4)▼会場へのアクセス・JR山手線/JR京浜東北線・田町駅下車、徒歩8分 都営地下鉄浅草線/都営地下鉄三田線・三田駅下車、徒歩7分 都営地下鉄大江戸線・赤羽橋駅下車、徒歩8分 <http://www.keio.ac.jp/ai/access/mia.html>▼研究発表・報告I 橋本 繁(早稲田大学商学部非常勤講師)発表題目:韓国出土木簡と新羅碑文 報告II 范常喜(中山大学講師)発表題目:従出土文献資料新証鄭玄注古文数則 報告III 有馬 卓也(広島大学大学院文学研究科教授)発表題目:『淮南万畢術』の意義―『五十二病方』「医心方」とのかわり―

☆参加費(資料代) 五〇〇円

☆非会員の来聴を歓迎します。

☆大会終了の後、懇親会を行う予定です。ふるってご参加ください。

▼お問い合わせ:(例会委員長) 〒400-0035 山梨県甲府市飯田5-1-1 山梨県立大学国際政策学部 名和研究室 Tel 055-224-5276 (直通) Fax 055-228-6819 E-mail: nawa@yamanashi-ken.ac.jp